

デュロキセチンカプセル「KMP」

を服用される患者さまとご家族の方へ

糖尿病性神経障害に伴う疼痛

線維筋痛症に伴う疼痛

慢性腰痛症に伴う疼痛

変形性関節症に伴う疼痛





「痛み」とは

- ケガや火傷などをしたときに起こる痛み、神経が傷つくことで起こる痛みなど、様々な原因で痛みは発生します。原因がなくなれば治まりますが、原因がなくなっても痛みだけが長く続くことがあります。
- 痛みは、脳の神経細胞が「痛い」という信号を受信して生まれる感覚です。痛みに関連する神経の経路には、
 - ①「痛い」という信号を脳に伝える経路
 - ②「痛い」という信号を抑える経路の2つがあります。
痛みが長く続くのは、「痛い」という信号を抑える経路に異常が生じていることが、原因のひとつであると考えられています。

デュロキシセチンカプセル「KMP」のはたらき

- このお薬は、長く続く痛み（糖尿病性神経障害に伴う痛み、線維筋痛症に伴う痛み、慢性腰痛症に伴う痛み、変形性関節症に伴う痛み）を和らげます。
- このお薬は、セロトニンとノルアドレナリンの量を調整することで、痛みを抑制すると考えられています。セロトニンとノルアドレナリンは、「痛い」という信号を抑える経路に関与しているといわれています。
- このお薬は、うつ病の治療にも使われますが、その効果とは別に、痛みに対しても効果を示します。

デュロキシセチンカプセル「KMP」を飲む前に

うつ病など、精神科／心療内科の病気で治療されている場合は、服用前に必ず医師に伝えてください。
このお薬は、精神科／心療内科の病気の症状に影響を与える可能性があります。

デュロキセチンカプセル「KMP」の副作用

- 飲み始めてから1～2週間頃に、**眠気**や**吐き気**などの副作用があらわれることがあります。これらの症状は、自然に治まってくることもあります。気になる症状があらわれた場合は、医師または薬剤師に相談してください。ご自身の判断で服用を中止しないでください。

- 飲み始めや飲む量が変わったときに、

- ・イライラして落ち着かない
- ・生きるのがつらいと感じる
- ・消えてしまいたいという気持ちになる

といった症状があらわれたり、場合によっては死にたいという気持ちになったりすることが、まれにあります。

- 不安になる、あせる、興奮しやすい、攻撃的になるなどの症状があらわれることがあります。

このような症状があらわれた場合は、医師と相談の上、必要に応じて精神科／心療内科の受診を検討してください。

▶ ご家族の方へ

上記のような症状に気がついた場合は、患者さんご本人またはご家族から、早めに医師に連絡してください。



デュロキセチンカプセル「KMP」の飲み方

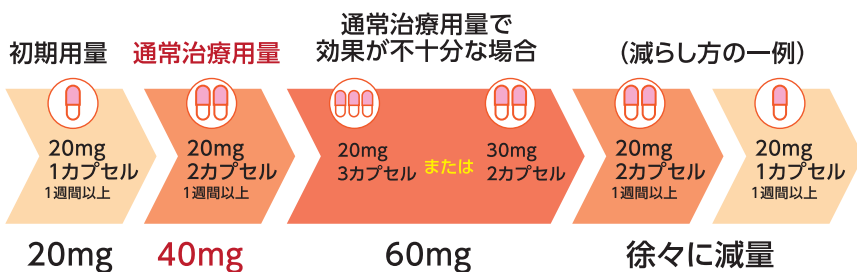
- 1日1回朝食後に服用します。
- 痛みがあるときだけ服用するのではなく、毎日服用することで効果を
- 効果があらわれるまでに時間がかかる場合がありますので、医師の指示
- カプセルをあけたりせず、そのまま服用してください。

中止するときは、医師と相談しながら**少しずつ量を減らしていきます**。
量を減らしたりすると、気分の変調、頭痛、吐き気などの症状があらわれ

糖尿病性神経障害に伴う痛みがある患者さんの場合

1日1回20mgから始め、1週間以上の間隔をあけて、通常治療用量の40mgまで増量します。
効果が不十分な場合は、1日1回60mgまで増量することがあります。

1週間以上服用した後、効果や副作用の状態をみながら、20mgずつ量を増やし、通常治療用量の40mgにします。





発揮します。
通りにきちんと服用してください。

体調が良くなったとご自身で判断して服用を中止したり、
ことがあります。**医師の指示通りに正しく服用してください。**

線維筋痛症・慢性腰痛症・変形性関節症に伴う痛みがある患者さんの場合

1日1回20mgから始め、1週間以上の間隔をあけて20mgずつ増量し、最終的に60mgまで増量します。
通常治療用量は、1日1回60mgです。

1週間以上服用した後、副作用の状態をみながら、20mgずつ量を増やし、通常治療用量の60mgにします。



服用中の注意点

- このお薬は、肝機能、心拍数、血圧に影響を与えることがあります。そのため、血液検査や脈拍数・血圧の測定を行い、異常がないか確認することがあります。
- 糖尿病の患者さんでは、このお薬により、血糖値やHbA1cに影響を与えることがあります。その場合は、必要に応じて糖尿病治療薬の調整が行われます。
- めまいやふらつきにより転倒することがあります。このような症状を感じた場合は、早めに医師または薬剤師に相談してください。
- 眠気、めまいなどを起こすことがありますので、自動車の運転などをする際は、十分に注意してください。
また、眠気やめまいなどの症状を自覚した場合は、自動車の運転などは絶対にしないでください。
特に薬の飲み始め、飲む量を変えたとき、他の薬から変えたときにこれらの症状があらわれやすいため、医師から運転などをしないように指示があった場合は指示を守りましょう。
- 痛み止めとして用いられる非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)は、消化管出血の副作用が知られています。デュロキセチンカプセル「KMP」とNSAIDsを一緒に使用すると、消化管出血が起こりやすくなる可能性があります。気になる症状があらわれた場合は、早めに医師または薬剤師に相談してください。



その他、気になることや分からないことがある場合、
医師または薬剤師に相談してください。

医師または薬剤師の連絡先